

あとがき

「あとがき」の末尾に3つの動画を紹介しました（2020年10月と12月撮影）。その内容は次のようなものです。福島事故から10年経って、原発の中はどうなっているのか、元原子力規制庁長官の案内で、各号機の事故炉内部を撮影してくれています。短い時間内でないと被曝線量が高くて危険ということがよく分かります。アラームがけたたましく鳴り響くので臨場感があります。福島原発事故10年を検証していくうえで、この動画は出発点になると思いました。

2020年から、新型コロナウイルスの感染急拡大と対策の酷い遅れにマスコミなどの焦点が向かっている間に、再稼働、再処理工場稼働、中間貯蔵施設、高レベル放射性廃棄物処分場予定地選定につながる「調査地」の「立候補」、さらにALPSで基準値未満の処理水にできていない汚染水状態のものも海洋投棄しようとするなど、政府と原発利益共同体の動きが目立ってきました。さらに、除染がまだできていないところへの住民の帰還も進めています。

その一方で、地球温暖化の進行によって、記録的な台風、例を見ない豪雨・豪雪や熱波による環境の異常な変化を危ぶむ国民の世論に押されて、政府は、2050年には「二酸化炭素排出量を抑えて」「カーボンフリーにする」とようやく言い出してきました。ところが、「そのために原発推進」がうたわれています。

「地球温暖化対策」が「原発推進」に、「再生可能エネルギーの推進」が「災害や環境破壊をもたらす巨大な再エネビジネス」で「利権中心」になりかねない動きも強まっていることが懸念されます。また再生可能エネルギーによる電力も、巨大電力会社のエネルギー支配の構造に組み込まれたままでは、エネルギーと環境問題の解決は「道遠し」です。

地域に合った再生可能エネルギーはどのようなものかを知ることから始まって、地域の産業と結びついて、地域経済を持続可能な道へと進めていく地域住民の議論が沸騰して、住民が主人公になる地域社会が全国各地に生まれていくことを願っています。そのことが、一極集中の歪んだ日本の国土の歪み、「三密状態」を酷くして、新型コロナウイルスの感染など、これからも現れてくるウイルスなどの侵入に耐えることが難しい状態から、釣り合いのとれた日本へ転換していく道筋になると思います。

本書は原発・エネルギー・地域経済に議論を深めていただいた方たち、電力・エネルギーのプロの皆さんなどと議論し合ったこと、現地へ調査に行ったことなど、多くのおみなさんの知恵が集まったものです。あけび書房の岡林信一氏の根気強い働きかけのおかげで陽

の目を見ることになりました。黙って見守ってくれていた連れ合いの早苗を含めて、皆さんに心から感謝いたします。

2021年1月

吉井 英勝

参考資料—YouTube 動画で調査を見ることができます。アドレスは以下のとおり。

福島第一原発1号機調査（2020年10月9日）

<https://youtu.be/7KX-mmwh93c>

福島第一原発2号機調査（2020年10月8日）

<https://youtu.be/n2krVl7-MUs>

福島第一原発3号機調査（2020年12月26日）

<https://www.youtube.com/watch?v=Xf7miUAgTiI>

<https://www.youtube.com/watch?v=mrWa8wFR-Pk>